— 観 察 記 録 —

クビワキンクロ *Aythya collaris* の岩手県初記録

藤井忠志^{1,*}・四ツ家孝司²・佐々木 均³・佐々木あさ子³・砂田比左男⁴・熊谷 賢⁵

¹ 岩手県立博物館 〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷 34

² 日本野鳥の会盛岡支部 〒020-0583 岩手県岩手郡雫石町上野片子 13-1

³ 日本野鳥の会秋田県支部 〒013-0038 秋田県横手市前郷一番町 1-21

⁴ 陸前高田市立博物館 〒029-2205 岩手県陸前高田市高田町字砂畑 61-1

⁵ 陸前高田市海と貝のミュージアム 〒029-2205 岩手県陸前高田市高田町字下宿 55

(2007 年 3 月 14 日受付；2007 年 6 月 22 日受理)

1. 種名・観察個体数：クビワキンクロ *Aythya collaris* 雌 1 羽

2. 観察者名：藤井忠志・四ツ家孝司・佐々木均・佐々木あさ子・砂田比左男・熊谷 賢

3. 観察日時・場所：2007 年 1 月 21 日 16:00 (発見)～2007 年 5 月 15 日の 109 日間。1 月 21 日～2 月 1 日は不定期に 6 日間、2 月 2 日～5 月 15 日は 103 日間の毎日観察した。場所は岩手県陸前高田市気仙川 (北緯 39°2′, 東経 141°37′)。

4. 観察距離：20～50 m 離れた地点から、8 倍の双眼鏡や 20 倍のフィールドスコープを用いて観察を行った。

5. 観察した環境：サケ *Oncorhynchus keta* の孵化場が隣接する幅 20 m ほどの川であり、イワナ *O. iwame*, アユ *Plecoglossus altivelis*, ヤマメ *O. masou* 等の釣りの名所としても有名な地である。河川にはツルヨシ *Phragmites japonica* などが所々に生育し、矢作川が気仙川本流と合流した地点で、広田湾上流 4 km に位置する。

6. 形態に関する記述：体サイズは、キンクロハジロ *A. fuligula* と同大だったが、冠羽はなかった。頭部が暗褐色で、顔前面は白色、虹彩は暗色で、眼の周囲が白く目尻から後方に白い過眼線があった。また頭部形状は後頭が上方に盛り上がり、耳羽部分からほおは横にふくらんでいた。喉部分は淡い白色を帯びていたが、喉から胸にかけては暗褐色であった。さらに背から小・中・大雨覆と初

列雨覆および初列風切から三列風切までが暗褐色、その下面の脇は褐色であった。翼を伸ばし背伸びした際には、腹部全体が白色であった。上尾筒は黒いが下尾筒は白く、ふ蹠は黒かった。嘴は青灰色で、嘴上面先端付近に顕著な白帯が見られた。

7. 計測値：—

8. 種を同定した規準：同定に際しては、デジタルカメラ (Canon D-30) の写真記録とデジタルビデオカメラ (Canon XL1S) の映像を解析し、既存の文献や資料を参考にした。カモ科鳥類で、体サイズがキンクロハジロと同大で主な羽色が褐色またはそれに近い種としては、クビワキンクロ雌、アメリカホシハジロ *A. americana* 雌、ホシハジロ *A. ferina* 雌、アカハジロ *A. baeri* 雌、スズガモ *A. marila* 雌、キンクロハジロ雄エクリプスの 6 種があげられる。これらの識別ポイントとして、背面と雨覆・脇の羽色、頭部の形状、虹彩の色、嘴の白帯の有無等の各部位に注目して同定を試みた。背面と雨覆・脇の羽色はクビワキンクロ雌で背面と雨覆が暗褐色・脇が褐色 (Kear 2005) と観察した個体と同じになっているが、ホシハジロ雌で暗灰色・灰色、スズガモ雌で暗灰色かつ黒色・灰色である。以上から、ホシハジロ雌とスズガモ雌は除かれる。頭部の形状は、観察した個体はクビワキンクロ雌の特徴である盛り上がった後頭が確認された。他種の頭部は、アメリカホシハジロ雌では後頭が長く、アカハジロ雌では丸く、キンクロハジロ雄エクリプスでは丸く短い冠羽がある (Svensson *et al.* 1999)。以上から、アカハジロ雌と

* E-mail: fujii@iwapmus.jp

キンクロハジロ雄エクリプスも除かれる。残るクビワキンクロ雌とアメリカホシハジロ雌の虹彩はどちらも褐色で、眼の周囲が白く目尻から後方に白い過眼線がある点については差異がない（桐原 2000）。しかし、嘴先端付近は観察個体が明瞭な白帯があるのに対し、アメリカホシハジロ雌には白帯がない（Svensson *et al.* 1999, 桐原 2000）。また、水面での直接観察から、観察個体はキンクロハジロと同大またはそれ以下の体サイズであり、アメリカホシハジロ雌より小さいといえる（Kear 2005）。さらに、観察個体では上面（背面と雨覆）と側面（脇）の境界が明瞭であったが、アメリカホシハジロ雌では不明瞭であり（Kear 2005, Johnsgard 1979）、この特徴はクビワキンクロ雌と合致する。以上から、クビワキンクロ雌と同定された。

9. 観察した行動：観察された日中の行動を、潜水行動と採餌行動、および休憩・就峙行動等に分けて記述する。キンクロハジロ、ホシハジロ、ホオジロガモ *Bucephala clangula*、ヒドリガモ *Anas penelope*、オオバン *Fulica atra*、ウミアイサ *Mergus serrator* の群れに混じり、キンクロハジロ同様の潜水行動や翼を広げる行動を繰り返していた。採餌行動については、ツルヨシの枯れ草をくわえる行動や、5~6 cm ほどのサケの幼魚をオオバンやキンクロハジロの群れとともに、採餌しているところが頻繁に確認された。就峙場所は、矢作川方面の沢から流れ込んだ水が本流の気仙川に合流した地点の岸辺で、キンクロハジロの群れに混じって就峙していた。

なお、今回観察したクビワキンクロは5月3日の18:10までは確認できたが、翌日の5月4日から5月15日まで観察を継続したが、本種の姿を確認できなくなったことより、最終確認日を5月3日とした。したがって、滞在期間は109日間以上と推定される。

10. 写真：有り（図1）。約60分間の動画もあり。

11. 死体・標本保管場所：—

12. 過去の記録とその文献：日本では東京都不忍池に雌個体1羽が1977年に渡来したのが最初（清棲 1978）で、その後同地で雄1羽が1984年から連続7年渡来している（日本鳥学会 2000）。そのほかの渡来記録を列記すると、和歌山県田辺市で1990年3月10日に雌1羽（桐原 2000）、福島県会津若松市猪苗代湖長浜1991年3月3日雌1羽（日本野鳥の会野鳥記録委員会 1991）、北海道斜里郡斜里町港町斜里川河口1994年3月

図1. クビワキンクロの雌（撮影者：四ツ家孝司 撮影年月日：2007年1月24日）

Fig. 1. A female Ring-necked Duck *Aythya collaris* on 24 January 2007 (Photo by K. Yotsuya)

図2. クビワキンクロが渡来した気仙川（撮影者：四ツ家孝司 撮影年月日：2007年2月7日）

Fig. 2. Kesen river where the Ring-necked Duck was observed (7 February 2007; Photo by K. Yotsuya)

8日1羽、1994年12月18日に雄1羽（日本野鳥の会野鳥記録検討会 1996）、鳥取県境港市中海干拓弓浜工区2006年3月14日 雌1羽（川口・江木 2007）の5地域13例の記録があった。

13. その他：第一発見者 四ツ家孝司

14. 考察：本種は北アメリカの中央部と東北部の一部で繁殖し、冬期は北アメリカの東部・西部および中央アメリカの北部や西インド諸島に渡る（清棲 1978）。日本では迷鳥扱いとなっている（日本鳥学会 2000）。上述のように日本では13例の渡来記録があるが、岩手県においては1990年5月8日に陸前高田市古川沼で、雌1個体の目撃情報（北里大学水産学部生物部 1991）はあるものの、写真や形態の記述などの同定の根拠が示されておらず、査読を経て論文として発表されたものではないことから、本種ではない可能性がある。また、岩手県野生生物目録（岩手県生活環境部自然保護課 2000）にも記載されてないことから、今

回の観察が岩手県における初記録と考えられる。

本稿の観察やまとめに際し、以下の方々に協力いただいた。陸前高田市立博物館学芸員の水野いずみさん、陸前高田市立博物館作業員の菊池紀春さん、陸前高田市消防署の村上信幸さん、陸前高田市教育委員会社会教育課の佐藤正彦さん、そのほか及川甲子さん、佐々木 洋さん、高橋康浩さんに心からお礼申し上げる。また、航空科学博物館の金田彦太郎氏と1名の匿名査読者、そして編集幹事の濱尾章二氏からは、貴重な資料やご助言をいただき、感謝の意を表する。

引用文献

- 岩手県生活環境部自然保護課 (2000) 岩手県野生生物目録。岩手県，盛岡。
- Johnsgard PA (1979) *A Guide to North American waterfowl*. Indiana University Press, Bloomington & London.
- 川口 敏・江木寿男 (2007) 鳥取県におけるクビワキンクロの観察。日鳥学誌 **56**: 58–59.
- Kear J (ed.) (2005) *Ducks, Geese and Swans*. Oxford University Press, Oxford.
- 桐原政志 (2000) 日本の鳥 550 水辺の鳥。文一総合出版，東京。
- 北里大学水産学部生物部 (1991) 古川沼 海蟬 10(2):

147–148.

- 清棲保之 (1978) 日本鳥類大図鑑補遺。講談社，東京。
- Svensson L, Grant PJ, Mullarney K & Zetterstrom D (1999) *Bird Guide*. Collins, London.
- 日本鳥学会 (2000) 日本鳥類目録 (改訂第6版)。日本鳥学会，帯広。
- 日本野鳥の会野鳥記録委員会 (1991) 野鳥情報・公式記録。Strix **10**: 316.
- 日本野鳥の会野鳥記録検討会 (1996) 野鳥情報・公式記録 1994.8–1995.7. Strix **14**: 205–211.

The first record of the Ring-necked Duck *Aythya collaris* in Iwate Prefecture, Japan. Tadashi Fujii (Iwate Prefectural Museum, 34 Matuyashiki Ueda, Morioka, Iwate, 020–0102 Japan), Koji Yotuya (Morioka branch office, Wild Bird Society of Japan, 13–1 Katako Uwano Shizukuishi, Iwategun, Iwate, 020–0583 Japan), Hitoshi Sasaki, Asako Sasaki (Akita branch office, Wild Bird Society of Japan, 1–21 Ichibantyou Maegou, Yokote, Akita, Japan), Hisao Sunada (Rikuzentakata City Museum, 61–1 Sunahata, Takatatyou, Rikuzentakata, Iwate, 029–2205 Japan), Masaru Kumagai (Rikuzentakata City Umi to Kai Museum, 55 Shimojuku, Takatatyou, Rikuzentakata, Iwate, 029–2205 Japan)